

ラーニングプログラム「はなす、あるく、きいてみる」 Vol.1 まちをつなぐアートの“はたらき”

地域の日常のなかでアートを体験するには、どんな方法があるのか？

震災のあとに、アートはどんな役割を果たしたのか？

まちとアート、人と人の間で動く「つなぎ手」の仕事って？

ナビゲーターとともに現場を訪問し、市内外のゲストの話を聞き、
これからの思考と実践を育む2日間の集中プログラム。
このまちで何かをはじめるための、最初の一步を踏み出すために。

8月8日(土)13:30～17:00
せんだい演劇工房10-BOX box-5
仙台市若林区卸町2-12-13
最寄り駅 地下鉄東西線卸町駅

8月9日(日)10:30～15:30
仙台市市民活動サポートセンター 地下1F 市民活動シアター
仙台市青葉区一番町4-1-3
最寄り駅 地下鉄南北線広瀬通駅

申込方法 オンラインフォームよりお申し込みください

定員 30名(要事前申込/両日参加優先)

対象 高校生以上 アートやまちづくりに関心のある方、知識や経験は問いません

申込締切 2026年7月29日(水) 17:00まで



<https://logoform.jp/f/bzW3>

※応募多数の場合は選考の上、参加者を決定させていただきます。

※参加者は両日参加いただける方を優先いたします。

※参加可否は8月3日(月)までにメールにてご連絡いたします。

※終了後、2週間程度で、プログラムで学んだことについてレポート(800字程度)を提出していただきます。

※当日は、記録・広報用に撮影が入ります。

※個人情報は本プログラム及び複合施設に関するご案内・ご連絡に限り使用します。

- 情報保障・サポート：手話通訳などのサポートをご希望の方は、7月23日(木)までに
申込用オンラインフォームの内の該当欄にご記入いただくか、下記お問い合わせ先までご連絡ください。
- 会場設備：各会場に多目的トイレがございます。
- その他の申込方法：フォームのご利用が難しい場合は、郵送・電話でのご相談も受け付けております。

お問合せ 仙台市 青葉山エリア複合施設整備室
住所 〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1 市役所本庁舎4階
電話 022-214-6139 E-mail: bun008830@city.sendai.jp

施設整備に関する情報はこちらから→



<https://www.city.sendai.jp/shinsai/fukko/hukugoushisetsu/kentou/kentoujyokyou.html>

ラーニングプログラム「はなす、あるく、きいてみる」



仙台市では、「文化芸術の総合拠点」と「災害文化の創造拠点」となる音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点の複合整備を進めています。
このプログラムは、多様な活動を担う人やそれらが生まれる場を訪ね、
ともに学び、意見を交わすことで、わたしたちが暮らすまちの文化活動や
文化施設の土台となる視点を育み、これからの世代とともに複合施設
事業の“ありよう”を考えていく試みです。

対象 高校生以上

アートやまちづくりに関心のある方
知識や経験は問いません

参加無料

※交通費や昼食代等は
参加者実費負担となります。

Vol.1 まちをつなぐ アートの “はたらき”

2026 8/8(土), 9(日)

ナビゲーター
及川多香子さん
(アーツプロデューサー)

定員30名
締切7/29(水)17:00まで

Vol.2 海辺の オモイデと あたらしい地元学 (仮)

2026 11/22(日)

ナビゲーター
佐藤正実さん
(3.11オモイデアーカイブ代表)

定員15名
10月募集開始!

Vol.3 これって シンカツドウ? つくる、きく (仮)

2027 1/23(土)

ナビゲーター
桃生和成さん
(Granny Rideto代表)

定員30名
12月募集開始!

各プログラムでは、佐藤李青氏(立教大学特任准教授・複合施設管理運営アドバイザー)がモデレーターを務めます。

せんだい演劇工房10-BOXに集合！

1日目 8/8(土)

13:00～ 受付

13:30～ セッション① きいてみる

「アートがあるとまちはどうかわる？」

話し手：及川多香子（アーツプロデューサー）

14:30～ セッション② あるく、きいてみる

「人が集まる“つなぎ目”になる：震災後の歩みを振り返る」

話し手：八巻寿文 せんだい演劇工房 10-BOX を施設見学しながら話を聞きます。

15:30～ セッション③ きいてみる、はなす

～17:00 「日常のなかでアートに触れる場をつくる」

話し手：大橋端月、梶原千恵、八巻寿文



仙台市市民活動サポートセンターに集合！

2日目 8/9(日)

10:00～ 受付

10:30～ セッション④ きいてみる

～12:00 「文化施設が、まちを元気にする
～可児市文化創造センター ala の取り組みから」

話し手：松浦正和

13:30～ クロストーク はなす

～15:30 「“わたし”とまちをつなぐアートの“はたらき”」

登壇者：両日の話し手

2日間の
ナビゲーター：及川多香子
モデレーター：佐藤李青

社会包摂のあり方は一体どのようなかたちをしているのでしょうか。新しい複合施設の誕生を見据え、これまでの軌跡や他地域の事例を手がかりに、未来を担う人たちとともに、学び合いたいと思います。

人々が「よりよく生きる」ために、アートはさまざまな気づきやつながりを生み出します。特に震災以降、多くのアーティストや文化施設が実践を重ね、人々の思いや記憶を共有し、新たな対話や交流を生み出す役割を果たしてきました。

仙台・宮城「らしさ」ある、アートと

ナビゲーターメッセージ

及川多香子



八巻寿文（国境なき劇団 代表、舞台照明家、美術家、防災士）

宮城県仙台市出身。高校卒業後フランスへ留学。帰国後は舞台照明の仕事をしてしながら画家として活動。自身の活動と並行しながら、仙台市市民文化事業団職員として、せんだい演劇工房 10-BOX 工房長、せんだい3.11メモリアル交流館館長を歴任。2001年日本照明家協会奨励賞、2022年宮城県文化の日教育文化功労表彰。



大橋端月（音楽のおもちゃ箱 代表）

宮城県南三陸町出身。宮城学院女子大学音楽科文化系卒業。生涯学習事業に携わりつつ任意団体「音楽のおもちゃ箱」をはじめ、2025年に法人化し代表を務める。乳幼児の親子やこども向けの音楽体験、学校・地域へのアウトリーチ、包摂型の「どなたでもコンサート」を企画・制作。音楽家の地域での活躍の場づくりに取り組む。



梶原千恵（宮城教育大学 准教授）

宮城県女川町出身。宮城教育大学卒業後、中学校と高校で美術を教え、2018年から群馬大学大学院教育学研究科、2020年から2024年まで九州大学大学院芸術工学府で学ぶ。2024年から宮城教育大学で教鞭を執る。博士（芸術工学）。著書に『災害伝承とアートプロジェクト被災者と未災者をつなぐ』（水曜社、2026年）。



及川多香子（アーツプロデューサー）

宮城県仙台市出身。明治大学文学部演劇学専攻卒業。東日本大震災を機に仙台へUターンし、2014年よりNPO法人アートワークショップすんぶちゅ代表。2024年に一般社団法人PLAY ART せんだいを法人化、代表を務める。「すべての人にアートを」を理念に、さまざまな人々が文化芸術に参加できる機会づくりや次世代育成に取り組んでいる。

松浦正和（可児市文化創造センター ala 創造事業課）

宮城県仙台市出身。2007年より岐阜県可児市文化創造センターalaにて、コミュニティプログラムを主に担当する。社会的処方理念を軸に、文化芸術がもつ「生きる活力」や「つながり」を育む力を「alamachi元気プロジェクト」と称し、教育・福祉・多文化共生など多分野で社会課題の予防・解決を目指した事業を手掛ける。



佐藤李青（立教大学 特任准教授、複合施設管理運営アドバイザー）

宮城県塩竈市出身。アーツカウンシル東京のプログラムオフィサーとして、Art Support Tohoku-Tokyo（東京都による芸術文化を活用した被災地支援事業）を立ち上げから事業終了まで担当（2011～2020）。著書『震災後、地図を片手に歩きはじめる——Art Support Tohoku-Tokyoの10年』（アーツカウンシル東京、2021年）ほか。一般社団法人associations 代表理事。



（敬称略）